

カウンセリングスキルワークショップ(3/13-14)



(写真上：研修は予想以上に大盛況)

パヤオ県でMDTメンバーを対象にカウンセリングスキルワークショップを行いました。研修の目的は、人身取引被害者と接する機会のある郡及び準郡レベルのMDTメンバーが、人身取引被害者を支援する際に信頼関係を構築し、被害者の社会復帰を促進するためのカウンセリング技術を身につけるということでした。

事前の参加登録者は40人でしたが、当日は51人も参加しました。参加者はパヤオ県全9郡から来ており、職種も看護師、教師、ソーシャルワーカー、村長、準郡長、ボランティア等多岐に渡りました。講義の内容は、カウンセラーとしての心構えや資質、クライアントの話の聞き方、相談されたときの対応の方法など多岐に渡るトピックがカバーされました。

講師のラダワン先生はチェンマイ精神科病院で看護師として働く傍ら、チェンマイの看護学校で教鞭を執られています。ところどころにユーモアを交えながら、臨床経験豊かな講師自身の具体的な経験を基にした講義に加え、ロールプレイやカウンセラーとして自分を落ち着けるためのエクササイズなども行われました。今回はラダワン先生の他に、人身取引被害者自助グループLOLのメンバー二人も講師として参加しました。彼女たちは、MDTメンバーに「自分が被害者であることを知られたくないた



(写真上：カウンセリングのロールプレイ)



(写真上：1人が目をつぶって、もう1人が相手を誘導することによって信頼関係を体験するエクササイズ)

め家族にも隠している人が沢山いる。そのような被害者たちには厳密な秘密保持などの適切な配慮をしてほしい」、「人身取引を支援する側であるソーシャルワーカーや看護師の言葉に傷つけられることがあった。支援者は被害者に良かれと思って発言しているのかもしれないが、2次被害は多く起こっているなのでその配慮もお願いしたい」

と LOL メンバーの経験談や寸劇を通してメッセージを伝えました。また、講師の彼女達は LOL のメンバーとなって以来、似たような目に遭った被害者たちと一緒に活動することによって、友人が増えたこと、又友人たちと励まし合うことによって、過去を振り返り、未来をみつめられるようになったことも共有し、もし同研修参加者が帰国被害者と接する機会があれば、是非 LOL の存在を知らせてくださいと語っていました。

第 57 回国連婦人地位委員会 (3/5-9)

「第 57 回国連婦人地位委員会(Commission on the Status of Women, 以下 CSW)」が 2012 年 3 月 4 日から 3 月 15 日まで、国連本部で開催されました。今年と同委員会のテーマは「女性と女兒に対するあらゆる暴力の根絶と防止 (Elimination and prevention of all forms of violence against women and girls)」でした。今回は日本の NGO と政府共催で行われた「日本の女性に対する暴力の削減に向けて現状と対策」というサイドイベントで、同プロジェクトチーフアドバイザーの百生が「JICA の人身取引に対する取り組み」について発表しました。



人身取引は女性に対する暴力です。特に性的搾取されている人身取引被害者のほとんどは女性と女兒です。女性と女兒が性的な商品として売買されることを許すことは、すなわち女性の人権が剥奪されている状況を許すということ



です。今年と同委員会で採択された合意文書は、紛争地域での性的暴力、女性や子どもの人身売買、家庭内での暴力など、女性に対するあらゆる形の暴力を非難、各国政府に対して、性的暴力を犯罪として裁くための国内法の整備や、被害者の救済制度の強化、そして、女性への暴力の問題に対する国民の意識を高めるため、教育に力を入れることなどを求めています。



(写真上：サイドイベントには 100 名以上が参加)

同通信はプロジェクトの進捗状況及び関連情報をお知らせする目的であり JICA やカウンターパートの見解を示すものではありません。禁転載。